

# 進路ニュース

令和6年9月5日発行

## 何事も準備が大切！

### I. 進路指導主事より

いつもより長い夏休みが終わり、2学期が始まりました。

皆さんは、計画通りに充実した日々を過ごせたでしょうか。特に、1学期の終業式で話したことを実践できたでしょうか。今後は、1年生の英検結果と、2年生の理社の模試成績、3年生の受験結果を楽しみにしたいと思います。

現在、3年生の中には、総合型や学校推薦型について、チャンスが1回増えると考えている生徒がいるようです。それについては、1・2年生のうちから、ボランティアなどの体験活動に参加したり、各種コンテストに出場したりしていた生徒にとっては、そのように考えていいと思います。しかし、3年生になって慌てて体験活動に申し込んでいるような生徒にとっては、ノーチャンスです。昨年度の進路ニュース1月号にも書かせていただきましたが、自分だけのマイストーリーが無い生徒は、面接や小論文で1本筋が通る話できません。推薦条件の中にボランティア活動への参加があるから行くのではなく、奉仕の心という自発的な思いから、ボランティア活動に行くことが正しい行動ではないでしょうか。出願するためにボランティアに参加するということでは、受け入れてくださる団体の方々に失礼です。

本校では、1・2年生を中心に、体験活動やコンテストのチラシなど、掲示物を各クラスに配布しています。自分のクラスの掲示物は、常にチェックしてください。隣のクラスの掲示物を見てもいいでしょう。少しでも気になったら、校外に出かけて行って体験してください。自分の視野を広げることは、探究活動のテーマ設定や進路選択において、非常に大きな影響を与えます。1年生の中には、インターンシップだけではなく、看護体験や医療職体験、医師体験などに率先して参加した生徒がいます。非常に素晴らしい行動だと思います。他の生徒もぜひ見習ってほしいと思います。

残念ながら、本校の多くの生徒は、色々な理由を作って自分から外に出かけたがらないようですが、それが、視野の狭さや進路選択の迷いに繋がっています。1年生の集会でも話をしましたが、大学のミスマッチを防ぐために、自分の目で見て、肌で感じる経験をたくさんしましょう。スマホを使用して簡単に得られる情報だけで、全てを決めることは大変危険です。口コミなどは、正しい情報だけではなく、皆さんを悪い方向へ誘導する情報も含まれます。

外に出かけるきっかけは、大学見学や大学説明会、東大リサーチキャンパス参加や東北大学見学など、様々な進路行事でも提供しています。さらに、もう一步、自分から率先して計画し、行動してください。

また、今年度は、英語科の先生方からの英検受験の呼びかけに、多くの生徒が応えてくれて、受験者数が急増しました。次のステップは、主体的な各種コンテストや発表会への参加です。昨年度は、1年生の数学コンテスト優勝がありました。今後、そのような場で、上位入賞者が数多く出てくれることを期待します。

## II. 学校推薦型選抜について

9月3日(火)の昼休みに、今年度の指定校一覧を進路指導室(生物室)前に掲示しました。

例年通りに指定校を頂いた学校もあれば、新規に頂いた学校もあります。残念ながら、来年度も継続して頂ける保証は、どこにもありません。1・2年生は、あくまでも参考にして欲しいと思います。

また、推薦会議で承認を得て、初めて出願が可能になります。推薦会議の前に、どの生徒が、どの大学に推薦願を出しているのかなど、学校側から個人的な情報を口にするのは、一切行いません。3年生も、生徒間で、そのような情報をやり取りすることは、慎んでください。

学校推薦型選抜の推薦基準は、あくまでも出願基準であり、合格基準ではありません。承認を得られた生徒は、確実に合格するように、出願書類の作成や、面接・小論文の試験対策など、きちんとした準備をして受験してください。

## III. 模試の受験について

今年度は、校舎改築のため、8・9月の模試を、利根沼田文化会館をお借りして実施しています。

校外で実施すると、いろいろな面で不便を感じると思います。朝の起床時間や行き帰りの電車の時間、筆記用具や飲食物の準備など、普段と異なる部分に気を付けなければなりません。今回、残念ながら、遅刻や忘れ物に加えて、会場や時間の間違いなどをしてしまった生徒がいます。こちらからは、そのような間違いがないように、保護者通知やgoogle classroomを利用した連絡に加えて、終業式で話をしました。特に、3年生は、10月以降の模試も校外の施設を利用して実施することになります。受験本番を想定して、同じ過ちを繰り返さないように気を付けてください。大規模大学の受験では、毎年校舎を間違える生徒がいます。

現在は、コロナ禍で推奨できませんが、以前は、本番の入試に近い環境に慣れさせるために、学校外で行われる模試の受験を推奨していました。大学入試は、沼田高校で実施されることがなく、普段行くことができない大学の講義室や、予備校の教室などを借りて行われます。校内で実施する模試とは異なり、誰でも緊張感や不安感をもちます。そこで、大きな失敗をしないように、事前に校外の会場で受験を経験することが重要でした。

2つの会場をお借りして実施した課外補習も含めて、今回の校外で行われた進路行事をプラスに捉えて欲しいと思います。

また、先日、河合塾の担当の方と、模試の答案についてお話をする機会がありました。そこで、皆さんに注意してほしい点を2つお話しします。

1つ目は、3年生の集会や1年生の授業でも話をしましたが、解答欄を白紙にしないということです。全く見当違いの解答を書くことは止めて欲しいと思いますが、難問では、自分の思考段階を文字にするだけでも部分点をもらえることがあるということです。

2つ目は、文字を丁寧に書くということです。採点者が読めないような汚い文字では、0点になります。大きさも、大きすぎず小さすぎず、適切な文字が良いようです。見直しをする際にも、丁寧な文字であれば、見落とすことはありません。

最初の問いの途中計算で「 $2^3=6$ 」としてしまい、大問1つが0点になってしまった生徒は、得点开示の結果、それが原因で不合格になったそうです。その時は、時間がなく、急いで書いてしまい、後で見直しても気づかなかったそうです。丁寧な文字であれば、見直しの際に訂正できていたということに悔やんでいたそうです。

皆さんは、上記2点にも配慮し、記述模試だけでなく、定期試験も受験するようにしてください。模試での成功体験の繰り返しが、本番に強い自分を作り出します。